発行責任者 佐藤英樹

緑の風 NEWS

JR東労組

JR東労組ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ

East Japan Railway Workers' Union　2024年3月11日　No.78

東日本大震災から13年

東日本大震災の教訓を今こそ振り返ろう！

■自然災害大国であることを再認識しよう！

2011年3月11日14時46分に発生した東日本大震災から13年が経過しました。私たちは当時、継続したボランティア活動などを取り組み、組合員の生活再建と鉄道の復旧、地域の復興に努めました。

今年の1月には能登半島地震が発生し、鉄道や水道などの復旧工事が懸命に続けられています。私たちは被災したJR総連の仲間へのカンパを取り組むなど、「抵抗とヒューマニズム」の精神で取り組んでいます。

千葉県沖でのスロースリップ現象など、首都直下を含めてどこで大地震や津波が発生してもおかしくありません。備えを万全にすることが大切です。

■信頼関係が失われつつある職場風土に、危機感を持とう！

東日本大震災では、命を最優先する職場議論を日常的にしていたことが、的確なお客さま誘導を判断できた要因と言えます。一方、当時と比べて各系統の要員が減り、異常時の対応力が弱くなっていると言わざるを得ません。2023年8月の東海道線での電化柱衝突事故では降車誘導に課題が残りました。同時多発的な異常時にどう対処するか、過去から学ぶことが必要です。

一方、職場では懲罰的な日勤教育やハラスメント、大宮運転区での二重処分とも言える事象、希望に反する人事異動が行われ、会社に対する社員からの信頼度は著しく低下しています。異常時に「職責を超えて一致協力」するには、日常の「人を大切にする心」が必要ですが、その土台にも立てないような荒廃した職場風土に、私たちは立ち向かわなければなりません。

■想定外は起こりうることに踏まえ、原発問題を考えよう！

福島第一原発事故以降、一時は国内の原発は稼働ゼロとなりました。しかし近年は温暖化対策やエネルギー安全保障を口実に再稼働はおろか、新規建設まで行おうとしています。しかし私たちは原発事故で水戸地本や仙台地本の仲間を中心に故郷を追われ、生活が一変した現実を決して忘れません。

どんなに点検しても、設備の老朽化などによって想定外のことが起こりうることを、私たちはこの一年間の鉄道における事故・事象で学んできました。原発も同様で、人口減少で作業者の確保が難しい中、放射能を帯びた複雑な設備をメンテナンスし続けることは並大抵のことではありません。しかし一度事故が起きれば取り返しがつかないのが原発事故です。だからこそ、私たちは「脱原発」を訴え続けます。

自分自身、家族、仲間の「命」を守るために、
忖度なく本音を言えるJR東労組に結集しよう！